

## 学生による語り合いのシンポジオン 下案

学内外における学生主体の建築活動（教育・研究・実践）

シンポジオン世話人会 代表 野田真士

### 1. 概要

シンポジオンは、学生諸君の精力的な活動について話題提供の場を設け、語り合いと自由討議により参加者全員で交流する事を目的としている。今回、10回目の記念すべきシンポジオンにて、三つの大学の学生が参加し、教員や市民を交えての語り合いとなった。ここに、報告する。

- ・テーマ：学生主体の建築活動
- ・日時：2016年8月25日（木）
- ・場所：福岡大学2号館、会議室
- ・参加者：10人  
（内訳、学生8人：千葉大6人、  
福岡大1人、福井大1人  
教員1人、市民1人）



会場準備

- ・スケジュール
  - 14:00-14:15 主旨説明、発表要領
  - 14:15-15:15 活動プレゼンテーション
  - 15:30-16:50 語り合い、自由討議
  - 16:50-17:00 まとめ
- ・プログラム
  - (1). 学生の一連の取り組み  
：諫見研究室（九州産業大学）
  - (2). 子どもの頃にジュニアリーダー  
：荒川（福岡大学）

(3). 子どもの環境づくりに携わって

：寺田光成（千葉大学）

(4). 知的障害者施設「ハスの実の家」での暮らしと実践

：野田真士（全員福井大学）

(5). アニメで街おこし・街づくり

：富樫豊（市民）

### 2. 主旨説明

学生の学びの精神に加えて行動のエネルギーをもっと発揮させるために、知的交流によるエネルギー発散の場が必要として始められた企画が本シンポジオンであります。シンポジオンでは、学生が知的な話題を各自持ち寄って、学生同士、地域の方々、職業人の方々と知的交流として語り合いを楽しむものである。皆さん、大いに楽しんでください。

### 3. 話題提供と語り合い

#### 3.1 学生の一連の取り組み

；諫見研究室（九州産業大学）

発表学生が都合のため出席できないために、アドバイザー教員の諫見恭彦先生が参上され、学生も建築活動について話題提供があった。

諫見研究室は学生主体で地域活動を多面的に展開し、街づくり・ものづくり・人づくり・家づくり・事おこしをテーマに、学生が考え制作して、地域社会の役に立つ研究活動と教育実践を実施している。そのなかからいくつかの取り組みを発表された。

特に、プロジェクト「伊能忠敬のような」として校庭において世界最大の世界地図を

描いたことには、一同賞賛であった。



ぶらんど\*ぶらんと〜  
天空のHATAKE再生計  
画/cross fm協働プロ  
ジェクト/国立青少年  
教育振興機構事業



CASE STUDY (旧古河  
鉱業若松ビルの展示装  
置製作) / リーズガー  
デン作品展協力活動/  
日本学術振興会事業



測量ワークショップ  
「伊能忠敬のようなこ  
と」/日本建築学会大  
会関連行事/福岡県教  
育文化奨励財団事業



DREAM ART GARDEN  
2016「つみきのあか  
り」/福岡市文化芸術  
振興財団 福岡市民芸術  
祭一般プログラム事業



豊前市広井畑地区のラ  
ーバンデザイン/福岡  
県豊前市役所協力活動



キヤマノアキヤ/佐賀  
県基山町役場空家等対  
策検討協議会協力活動



都市のリノベーション  
〜福岡市中央卸売市場  
東部市場跡地への提案



一坪の茶室3/日本建  
築学会建築文化週間学  
生グランプリ作品出展



3.2 子どもの頃、ジュニアリーダー  
：荒川（福岡大学）

小さいときに、中学校や高校でジュニアリーダーを務め、こども環境には大変興味を持っている。こうした場にいることに感謝したい旨の話から始まった。続いて、卒業設計ではこの種の問題を扱っているわけではないが、心意気を設計に反映させたいとのことであった。また、最近のこども会の衰退を見るにつけ、心を痛めているといった話から、心意気、や姿勢の話になり、会場は大いに沸いた。

3.3 子どもの環境づくりに携わって  
：寺田光成（千葉大学）

これまで自ら地域活動を学部学生の頃から携わってきた。その後、留学して外国にて地域活動を勉強し実践して、帰国してからは園芸ランドスケープの視点で地域活動を捉え、いくつもの実践事例を報告されていた。

とりわけ、印象的であった報告としては、地域にて活動をしていたときに、地元から振興会館に居住を移して(会館管理人として)との要望があり、文字通り地域に根っこを生やした活動だできたという。(千葉県内某所にて)

そのほか盛りだくさんの目を見張る報告があった。今年、ドイツ・ドレスデンを起点にヨーロッパ各地の子どもの遊び環境を



見て回ってきました。約半年にわたり、体当たりで各地の現場に出向き、見て、感じて、交わってきたとのことでした。

寺田氏のプレゼンは、さながら業績絵巻物を見ているかのようにであり、会場は驚きに包まれていた。

### 3.4 知的障害者施設「ハスの実の家」での暮らしと実践

：野田真士（福井大学）

「何においても、自分らしく暮らすことが大事です。」と前置きされて、知的障害者施設「ハスの実の家」での活動を報告された。「自分らしい暮らし」の実現のために、自由な選択性のある暮らし方が必要であり、さらには日常的に人や地域社会とつながることが重要であることを主張されていた。

### 3.5 アニメで街おこし・街づくり

；富樫豊（市民）

街づくりについて、最近の宮崎駿作品や細田守作品からアニメロケ地が街の活性化で一役買っている話が紹介された。その後、皆さん、アニメファンゆえに、アニメとロケーションの話に花が咲き、特に「おおかみこども」の舞台を対象として、自然の静寂さについて議論した。



なお、アニメのイメージ舞台について、16年度ベストファイブは以下の通りである。

- ・『千と千尋の神隠し』愛媛県松山市など
- ・『となりのトトロ』埼玉県所沢市
- ・『もののけ姫』鹿児島県屋久島
- ・『おおかみこどもの雨と雪』富山県上市町
- ・『サマーウォーズ』長野県上市町

### 4. おわりに

今回は、じっくりと語り合うことができたので、いきおい人生論を垣間見ることもしばしばであった。自分の人生そのものが仕事の経歴であったり、学生の歴史を刻む心意気を感じた次第である。学生諸君には今後の活躍を期待するとともに、今後も語り合いの精神を背負っていただき全国にアクションを起こして欲しいものである。

参加の皆様、ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

謝辞：シンポジオンは、学生諸君の精力的な活動について話題提供の場を設け、語り合いと自由討議により参加者全員で交流する事を目的としております。大会の記念行事や関連行事として大会開催会場にて開催しています。第一回目がこの福岡大で実施して、全国を一回りし、9回目として再び福岡大学にての開催です。こうして継続できているのも、これまでの有形無形に支えていただきました皆様方のおかげです。まずはここに感謝申し上げます。そして、今回も盛り上げていただきました皆様方に冒頭お礼申し上げます。